

< 探検講座 >

フィールド・ノートの取り方について

編 河 本 雄 志

< 探検講座 >

フィールド・ノートの取り方について

フィールド・ワークの目的は何をしてくるかということであるが、そのフィールド・ワークの初期の目的を達成するためには、フィールド・ノートを上手に取る必要がある。フィールド・ノートは技術的なものですから、その上手下手によつてフィールド・ワークは左右されることになる。

社会調査 (social research) には2通りある。

イ) 問題解決的社会調査 (social survey)

定められた特別な問題を社会事業的に解決的に調査する。

ロ) 科学的社会調査 (social research)

仮説を立て、科学的法則から考察し調査する。我部の離島調査には科学的な認識を必要とし、科学的法則から考察しなければならない。

現在では問題解決的社会調査でも社会調査を必要とする様になつている。

又、理論的解決がなくてはならない。以上は社会調査について簡単に述べたのであるが、調査段階を如何に進めていつたら、フィールド・ワーク及びフィールド・ノートの取り方が容易になるかについて略述してみよう。

調査を進めていく上において、次の段階を追つていくことが当然必要となる。

1) 問題意識・仮説の設定

窮極的には結果を必要とするのであるが、一つの見解を出し、あるいは見解を打破するために、問題点をはつきりさせる。即ち問題意識・仮説の設定する。例えば、離島共通の問題点 (例、青年の転出) を摘出し、しかる上に問題の糾明 (社会問題の解決) をはかるのである。

2) 具体的調査項目を定めること。即ち、質問事項を定める (questionnaire)。

a. 短期日では、特定の問題点を科学的に集中的に調査する。

b. 単に見聞を広めるために旅行でもよい。

c. 問題を探がすには、bによつて行うことはよいが、あまり大きく、広く問題を調べることは、調査があまりスムーズにいかないことになる。

以上の二つの段階が終れば、次に3の段階として予備調査が必要となる。

3) 一般的にいつて、本調査を行うにあたり、予備調査を行うことが必要である。もちろん、場合によつてその必要があるとは必ずしもいえない。

予備調査を行った場合、本調査が易しく行い得る。即ち具体的データを集めやすい。インタビューがしやすい。又、部落の上部構造・下部構造がわかり、本調査において、質問事項などに対策をたてることができる。

予備調査においては、部落・世帯をあらかじめ選択し、その所在地を明瞭にするために、地図と世帯名を書く必要がある。又、部落・離島の概略をつかむことが必要である。

予備調査が終れば、いよいよ本調査の段階に入る。

4) 本調査には観察 (observation) と面接 (inter view) の二方法がある。

a. 観察 (observation)

非統制的な観察方法と統制的な方法があるが、前者は常識的な立場から観察し、後者は調査者又は、被調査者にコントロールされるのが普通である。又調査表に従つて行わなければならない。

科学が進歩すると、非統制的観察から統制的観察へと移つてゆくが社会科学調査では非統制的な観察にウエイドがおかれている。観察も厳密な調査の場合はコントロールされる。事実調査においては統一的な解答がえられるが、意見態度調査では、不統一的な解答しかえられない。上述の二点の一方のみをとり入れることは不可能である。

こゝで非統制的観察について、少し詳述すると、参与観察と非参与観察の二方法があるが、前者の場合では、長期の期間が必要であり、

部落の一員として生活に溶けこみ観察する。例えば、漁船に乗り込み仕事をし、畑仕事に参加したりして、部落の一員となるのである。後者の場合では、外部からきた観察者として、調査者になるのである。大部分短期間の場合に行われる。実際には、参与と非参与とを完全に分離することは出来ない。短期間の場合でも参与観察することができる場合がある。例えば、青年会・婦人会などの会合に出席する場合等。

・観察記録のとり方について

- ① 事実 (fact) と解釈又は推論 (inter pritation) とを厳密に区別してノートをとる。その場合、主観的にならないこと。
- ② 目次 (index) を作り、分類 (category) 別にノートする。即ち、一枚の用紙に一つの調査項目についてだけノートする。

b・面接 (interview)

面接は如何なる場合においてもむつかしいものである。日常の生活は面接に始まり、面接に終るといえる。即ち、面接の連続であるのである。あまり意識しないので、問題のない様に思われるが、面接の問題点はいかなるところでもひそんでいる。相手を怒らさない様に、又、ショックを与えない様にする心構えが必要である。面接は観察より重要で、社会調査の場合は、特に面接が大切で、主武器になる。

面接には、非指示的面接 (non-direct interview) と指示的面接 (direct interview) の二方法がある。前者は人によつて質問事項を変えて行う。後者は調査表 (schedule) 又は、質問形式表 (questionnaire) を作成し、質問を統一し、面接する。では如何にしたら面接がスムーズになり、上手に行うことができるか、面接上の注意について述べてみよう。

- ① 誰に面接するかを決定する。

階層構造を利用する。上部構造は一般的に面接がしやすく、下部構造は面接しにくい。問題によつて被面接者を上部構造からあるいは、下部構造から選定する。しかし、応々にして上部階層に片よりやすい。そこで、権力構造の利用が必要である。即ち、役場等から推薦をうけ、

問題によつて興味ある人（教員・興土研究家等）あるいは、上層部のグループ討論を利用したり、下層部の人達にも面接することが必要である。一部の人のみの意見を取り入れることは、フィールド、ワークには禁物である。

- ② 時間を考えて行うこと。即ち、面接相手が決まると、適当な時間を予めきり、質問することが必要であるが、前半は聞き役にまわり、後半では、問題点・矛盾点を問い正す。即ち、質問をするのである。他の人との話の違い、その人自身の矛盾点等々。
- ③ 相手が好意をもつて話してくれる様に、相手に対して良き心構えが必要である。

イ) 親和感・同情的態度が必要。即ち下手にでること。

ロ) 道徳的・価値的判断の回避。言いかえれば批判めいたことをしないこと。

ハ) 相手から忠告・助言を求める態度の必要性。

関係（rapport）をどの様にして作るかは相手をたてることによつて生ずるが、謙虚な態度（都合・事情などをきくこともこれに相当する。）でもつて、自我を抹殺し、打ちとけて話し合わなければならない。

ニ) 秘密厳守の保証

面接によつて、重要な事柄まで聞き得ることができるのであるから、相手の秘密を厳守することは当然である。個人名などを秘すことは、その典型である。

結局は、面接では相手を中心にして行うことが最も肝要なのである。

・面接ノートの取り方

① 何時、いかなる時にノートするか。

面接中にとる場合は、データーを確実に得ることができるが、面接がスムーズにはかどらない欠点がある。一方、面接後の場合は、データーは不確実であるが、面接がスムーズにいく長所がある。双方とも一長一短があるので、その妥協案として、面接中はメモ程度、即ち・要点のみ

ノートにとどめ、面接後に、full sentence にすることが適當である。もちろん、その場にノートしていい場合と、後でないといけない場合がある。秘密のある場合などは相手を安心させる上において、面接後でなければならない。伝説・風俗など比較的その場でノートしやすい場合は、その場で行う。

② 如何にしてノートするか

テーブコーダーでは一人称になり、メモの場合は三人称になるので、双方とも一方に片寄りやすく、面接ノートの整理に困難をきたすおそれがある。そこで、面接者の要約と、被面接者の言葉の引用、特に重要な点においては出来るだけ生の言葉を引用することにより、面接ノートの整理に役立たせることが出来る。事実と解釈を区別し、カテゴリー別にノートすることが大切である。

データーの種類には、事実調査と態度調査の場合とがある。前者は、一般的な内容・事柄・日時・場所及び、相手—いわゆる prisoner dataer 即ち、職業・階層の上下・年令・家族構成・性別等である。後者は意見・信念などの場合で、相手が感情を表わすときは、表情を記号にして印す。

調査段階の最終段階として、調査項目に対してどの様に approach していくかということである。

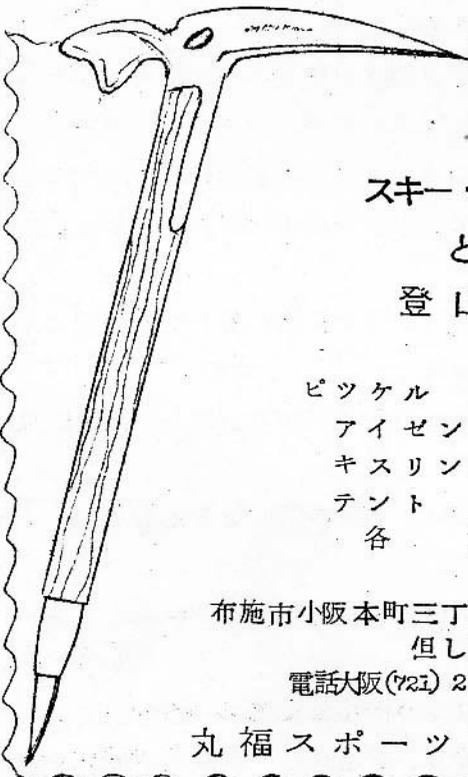
- ① 如何なる事実も他の事象との関連がある、即ち、因果関係がある。
- ② 歴史的発展がある。
- ③ 階層構造との関連、例えば、網元の制度を考へること。下層の立場と上層の立場の関係を調べる。
- ④ 矛盾対立の発見。現状維持と現状打破の各々を調査すると、そこに自然と問題意識が生まれる。

フィールド・ワークは以上の様な五段階の調査を経て、しかる上に、調査ノートを項目別に整理し、問題意識・仮説の解決をして始めて、完うしえるのである。

< 附 記 >

本号の誌上探検講座は昨年3月14日、探検部顧問吉田民人先生が、焼尻島、天売島の春期調査に際し、講義して下さったものを記録したものです。今後の調査に対し、少しでも役立てば幸甚に存じます。

編 河 本 雄 志



スキー・山用品
と
登山靴

ピッケル
アイゼン
キスリング
テント
各 種

布施市小阪本町三丁目四ノ一
但し南座前
電話大阪(721) 2225番

丸福スポーツ用品店